

1. 略歴

- 1977年3月 東京大学教養学部教養学科学士
1979年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻修士課程）修士
1981年9月～1985年7月 ハーヴァード大学 Harvard University（フルブライト全額給費奨学生として留学（スラヴ語スラヴ文学専攻博士課程）
1984年6月 ハーヴァード大学修士
1985年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻博士課程）単位取得満期退学
1984年2月～1985年6月 ハーヴァード大学、ティーチング・アシスタント
1985年8月～1989年1月 東京大学教養学部、専任講師（ロシア語教室・教養学科ロシア分科）
1987年10月～1988年9月 ワルシャワ大学東洋学研究所、客員講師（日本語日本文学）
1989年1月～1994年3月 東京大学教養学部、助教授（ロシア語教室・教養学科表象文化論）
1994年4月～2004年3月 東京大学文学部、助教授（スラヴ語スラヴ文学）
2000年5月～11月 ロシア国立人文大学（モスクワ）、客員研究員（国際交流基金フェロー）
2002年10月～11月 モスクワ大学アジア・アフリカ研究所、客員教授
2004年4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、現在に至る

2. 主な研究活動

a 専門分野

近現代ロシアおよびポーランド文学、現代日本文学を視野に入れた世界文学論、越境・亡命文学

b 研究課題

- (1) ロシア・東欧から日本までを視野に入れた形での新たな世界文学論へのアプローチ
- (2) ポスト共産主義時代のロシア東欧文学の総合的研究、
- (3) ユーラシア研究という新たな枠組みの中でのロシア東欧文学の位置づけ
- (4) ロシア近代小説研究（特にチェーホフ、ナボコフ）
- (5) ロシア詩詩の見直しと新しいロシア詩アンソロジーの編纂

c 主要業績

(1) 著書

- 共編著、Mitsuyoshi Numano and Tadashi Wakashima., *Revising Nabokov Revising: Proceedings of the International Nabokov Conference in Kyoto*. Kyoto: The Nabokov Society of Japan., 2011.
共編著、若島正・沼野充義、『書きなおすナボコフ、読みなおすナボコフ』、研究社、2011.6
共著、沼野充義（他5名との対話形式の講義集）、『世界は文学でできている』、光文社、2012.1

(2) 論文

- Numano, Mitsuyoshi, "On Stylistic Exuberance: Nabokov's *Gift* as a Russian Novel," in Mitsuyoshi Numano and Tadashi Wakashima., *Revising Nabokov Revising: Proceedings of the International Nabokov Conference in Kyoto*. Kyoto: The Nabokov Society of Japan, 2011, pp.63-39.
Numano, Mitsuyoshi, "The River as a Metaphor for Human Experience: Adam Mickiewicz's "Nad wodą wielką i czystą" in comparison with Tadeusz Różewicz's "Lyriki lozańskie" and Czesław Miłosz's "Rzeki," 『西スラヴ学論集』 No.14、71-88頁、2011.6
Нумано, Мицуюси, «Женщины как четыре квадранта мировоззрения: Метонимическое средство в «Спекторском» и «Повести» Пастернака», *SLAVISTIKA XXVII*, pp.73-102, 2012.3

(3) 報告書

- Numano, Mitsuyoshi, et al. ed., *Russian Literature and East Asia* (Proceedings of the Panel at ICCEES World Congress VIII, Stockholm, 42 pp., 2011.3
Numano, Mitsuyoshi, et al. ed., *Русская литература как социальный институт* (Proceedings of the Conference at the University of Tokyo), 66 pp., 2011.3
沼野充義他編「本郷の春—ウラジーミル・ナボコフと亡命ロシア作家たちをめぐる連続講義の記録」、120頁、2011.3
沼野充義・ドミトリー・バグのポリスキー共編、「ヴェルボンド」、第1号、192ページ、2011.6

(4) 訳書

沼野充義訳、ナボコフ『賜物』、河出書房新社、2010.4

沼野充義編訳及び解説、『新訳チェーホフ短篇集』、集英社、2010.9

共編訳、関口時正・沼野充義共編、『チェスワフ・ミウォシユ詩集』、成文社、2011.11

(5) 書評

村上春樹、『1Q84』、新潮社、Mitsuyoshi Numano（沼野充義）、『JLT2010』、No. 27、94-99頁、2010
「毎日新聞」日曜版「今週の本棚」に書評を定期的に寄稿（年間平均約10本）。

(6) 啓蒙

沼野充義、「ハルキが私たちのことを書いてくれる」—どうして村上春樹はロシアでこんなに人気があるのか、『熱風』、2010年3月号、15-19頁、2010.3

沼野充義、「名句で読むロシア文学の傑作」、NHK テレビテキスト『テレビでロシア語』2010年4月～2012年3月、毎月連載（全24回）。

新聞三社連合配信各紙（東京新聞、中日新聞、北海道新聞、西日本新聞）に毎月文芸時評を連載。

(7) 学会発表

国内、沼野充義、「ロシア文学者としての内村剛介」、第21回上智大学ロシア研究シンポジウム、上智大学2号館508番教室、2010.2.27

国内、Numano, Mitsuyoshi, “On Stylistic Exuberance of *The Gift* as A Russian Novel,” International Nabokov Conference in Kyoto, 2010.3.25

国外、沼野充義、「日本におけるロシア文学の翻訳の新しい傾向」（ロシア語）、第1回国際翻訳者会議、モスクワ（全ロシア外国文献図書館主催）、2010.9.3

国内、沼野充義、「翻訳で迷子になって Lost In Translation」、ロシア語通訳協会30周年記念集会、上智大学12号館202号室、2010.11.20

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

日本ロシア文学会中部支部講演会、「チェーホフの新訳をめぐって」、中京大学、2012.2.18

外交学院（北京）、現代日本文学に関する連続講義、2012.3.13-15

中国社会科学（北京）、「ハルキ対カラマーゾフ：現代日本文学に対するロシア文学の影響」（ロシア語）、2012.3.16

中国社会科学院（北京）、「現代日本の長編小説について」、2012.3.16

(2) 学会

「日本ロシア文学会」、会長、2009～（任期2013まで）

「日本ナボコフ協会」、運営委員、1998～

「日本スラヴ東欧研究学会(JSSEES)」、理事、1998～

「ロシア・東欧学会」、理事、2000～

「日本西スラヴ学研究会」、企画編集委員、2000～

「日本ロシア・東欧研究連絡協議会(JCREES)」、幹事、2009～

(3) 行政

「文化庁」、JLPP 現代日本文学翻訳作品選定委員 2007～

「文化庁」、芸術選奨（文学部門）推薦委員、2009～

(4) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

「毎日新聞社」、書評委員、1995～

「セゾン文化財団」、評議員、1999～

「国際交流基金」、Japanese Book News 編集委員、2004～

「新聞三社連合」（東京新聞・中日新聞他）、文芸時評担当、2004～

「読売新聞社」、読売文学選考委員、2005～

「日本ペンクラブ」、国際委員、2006～

「東京大学出版会」、企画委員、2007～

「早稲田大学」、坪内逍遙大賞選考委員、2007～

「北海道大学スラブ研究センター」、運営委員、2008～2010

「光文社」、感想文コンクール審査委員、2008～

「サントリー文化財団」、サントリー学芸賞選考委員、2010～